

秋田県地域生活定着支援センターからのお知らせ

センターの業務の紹介などを行っています。ご一読いただければ幸いです。

羽後町で「地域福祉支援検討会」を開催しました。(2025/3/19)

令和7年3月19日(水)羽後町文化交流施設「美里音」(三輪公民館)1階サークル室にて、「令和6年度地域福祉支援検討会(羽後町会場)」(以下、「検討会」という)を開催しました。

当検討会は、秋田県地域生活定着支援センター(以下、「定着支援センター」という)が、羽後町及び羽後町社会福祉協議会の共催で開催したものです。まず、定着支援センターの職員が、「罪を償った高齢者・障がい者の立ち直りを地域で支えるために」と題して、定着支援センターの取り組みを説明し、事例の紹介等を行いました。



続いて、羽後町の担当者より、羽後町再犯防止推進計画について説明がありました。再犯防止推進計画は、5年に一度、地域福祉計画と一体的に作成しており、昨年3月に策定されたものであり、犯罪をした人が再び罪を犯すことなく、自立した生活を送ることができるよう、必要な体制整備や関係機関との連携などの取り組みを進めるもので、今後とも連携を強化し、協力して推進していきたいのでよろしくお願いしたい、と述べられました。

引き続き、定着支援センターの豊澤センター長が「定着支援センターの取り組みや再犯防止計画について、疑問や聞きたいことはないか。罪を犯した人は、いわば生きづらさを抱えており、家庭での受け入れが難しいことも多く、地域で支援している皆様も、感じていることがあるのでは」と、参加者に問いかけたところ、以下の発言がありました。

- ・定着支援センターの存在を初めて知った。刑務所から帰ってくる人の支援をしているところがあるとは知らなかった。もし相談を受ける立場になったら、関係機関との協力のもと、やっていきたい。
- ・今後、協力して支援をしていく必要が出てきたときに、今日ここで顔を合わせた人に、相談できる、会って話ができると思うと、この会の開催に感謝している。
- ・刑余者の支援は経験がなく、こういったことをやったらいいのかわからない。
- ・年金を使いすぎる高齢者や障害者への相談対応をしているが、対応が難しい。
- ・支援は、一つの機関だけでは無理。連携が必要。
- ・知的障害、発達障害の場合などは、障害の実態が表に出ない側面もある。
- ・金銭管理は何をするのか。→日常生活自立支援事業(本人、県社協、羽後町社協の三者契約)で行う。金銭管理を導入すれば生活が成り立つ、というものではない。色々な支援者が伴走支援を続け、本人がどんな生活をしたいかを確認してから、本人の意思で利用を開始することになる。
- ・障害の施設入所のメリットは、施設職員が服薬の管理をすること、相談事を傾聴することで、精神状態が安定し落ち着いた生活ができ、離れて暮らす家族も安心できる。

最後に、豊澤センター長より、年度末のご多忙中に出席くださり、色々なご意見をいただいたことへのお礼を述べ、今後、支援が必要なケースがあった際には相談に伺うので連携、協力をお願いしたい

こと、また、羽後町でこのような会議を行う際には呼んでいただきたいこと、積極的に関わっていき
たいことをお話ししました。